

三田メディアセンター図書館新館のフロア改修

ひらぶきかよこ
平吹佳世子

(三田メディアセンター)

1 はじめに

三田メディアセンターの中期計画に基づき、館内全体のサービスポイントを見直し、スペースの活性化を目指した館内環境の整備計画を立案するために、2016年12月に各担当の代表者によるチーフミーティングを立ち上げた。

2016年12月から2017年5月の第1期では、基本方針を策定し、フロア改修の具体的なフロアプラン案を提出した。この案は、短期・中期・長期に分け、実施のために必要な調整や交渉などにも言及した。図書館旧館（以下旧館）も含めた案を出したかったが、旧館改修工事終了後の状況はその時点で不確定要素が多く、ひとまず新館の1階から5階に絞って計画した。

2017年10月から2018年3月までの第2期では了承されたフロアプラン案を実施する一方で、さらに多方面からの意見を収集・分析し、軌道修正した。2018年5月から2019年8月の第3期では残りの改修を一気に進めた。この3期にわたる検討内容や実施状況についてまとめ、現在の利用状況を含めながら報告する。

2 基本方針 フロアプラン案の策定 — 第1期

基本方針

- ・利用者の異なるニーズに合わせて、多様な閲覧・学習スペースを提供することにより、より多くの学生、教員により快適に利用してもらうことを目指す。
- ・フロアごとにコンセプトを決め、ゾーニングをする
- ・館内のカウンター役割と配置を再考し、利用者にわかりやすい形に集約する
- ・オリエンテーション、イベント、展示、貴重書紹介等、新しい情報発信の場を整備する
- ・利用者のPC利用実態に合わせた形でPC、端末、電源を提供する

2017年9月に1階イベントエリアの整備を実施した。不要什器を撤去し、オリエンテーションを行えるよう、ホワイトボードを取り付けた。オリエンテーションを実施しない時期は、バイオテーブルを3台配置し、小グループで利用できる場所とした。PCを使いながら利用する人気の場所となっている。



1階イベントエリア

3 フロアプラン案の軌道修正 — 第2期

第2期中にWebアンケートLibQUAL+® 2017が行われたため、この調査結果を参考に、チーフミーティングメンバー以外の意見なども取り入れ、フロアプラン案を一部修正した。場所への期待が高いことを受け、2018年2月に4階事務室のパーティションを撤去し、仕切りのない平机を4台設置し16席を配置した¹⁾。各テーブルとも常連利用者が朝から愛用する状況となっている。

基本方針に基づき、できるだけ利用者の身分による分けを止め、さまざまなニーズに応じた閲覧室を配置することとしたため、2018年1月に大学院三田自治会と、閲覧室についての懇談を行った。その結果、大学院三田自治会側でも大学院生限定の閲覧席は利用率が低い認識があり、2階大学院閲覧室を一般閲覧室へ変更する提案を快く了承していただいた。現在では午前中から確実に席が埋まる人気の閲覧室となっている。

また、2017年11月のメディアセンター研修会で講演された慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科・岸本教授にコンサルティングをお願いした。2018年2月に三田メディアセンターへお越しいただき、利用者の導線や余裕・ゆとりのスペースの必要性など我々が気づかないアドバイスを多数いただいた。

館内設置のPC利用への要望対応として、第1期のフロアプラン案では静かエリアである2階東閲覧室をPCエリアへ改修することを提案していたが、2018年1月～2月に2階東閲覧室をよく利用する利用者限定でアンケートを行った結果、学部生、大学

院生ともそのままが良いという意見が6割を占めた。特に、2階東閲覧室を常時使用している利用者の8割はそのままが良いとの結果だった。静かな場所を求める利用者が多いことを再確認した。また、この閲覧室は建設当初から手を加えておらず、建築家の意匠や建物の雰囲気を大切にすることの重要性を改めて感じた。一方、PC利用の要望には、地下1階閲覧席に電源コンセントを設置することで対応した。管財部施設担当の協力により、建設当初から設置されている木製閲覧机に穴をあけ、埋め込み式でコンセントを設置する方式を採用した。多少高額ではあるが机上が有効利用できるうえ、見た目もスッキリして好評である。

4 フロアプラン案の実施(5階, 1階) — 第3期

第3期は5階の改修から実施した。長年の課題であった図書館・情報学資料室は、事務長により、専攻教授との懇談を重ね、資料の再配置と閲覧室の一般利用について承諾を得るに至った。資料を移動し、2018年8月には書架を撤去した。ハイテーブルや平机はこれまで以上に利用が増え、常時満席の状況である。



5階閲覧室

また、事務室と閲覧室が一体となっている5階貴重書室は、コレクションの増加による増員や展示・研究関連の物品増加のため、利用者の閲覧環境が著しく低下していた。2019年2月に、同フロアの倉庫を改修して貴重書準備室として整備した。



5階貴重書準備室

倉庫には予備の機器類が置かれていたが、機器は別の場所へ移動、個別空調を整備して事務室とした。上下にガラスを入れてデザインを工夫したパーティションを取り付け、貴重書室内の物品を準備室側へ移動させたため、貴重書室は快適な閲覧環境を取り戻しつつある。準備室も今後のさらなる有効活用が期待できる。

1階の改修では、ラウンジにソファを4脚設置することで、余裕・ゆとりのスペースを確保することができた。また、1階レファレンスは、入口近くのメインカウンターの前であり、最も目立つ場所であることから、日吉メディアセンターと同じ空間設計の専門家に協力を依頼した。レファレンス書架の一部を撤去し、L字テーブルを2台配置し、1階、3階、4階に数台ずつ置いていたPC合計8台を一か所に集めた。閲覧席へ続くスペースであるため、部分的な床上げは通行の妨げになることから、ネットワークおよび電気配線には苦勞したが、テーブル下の受け皿や中央部分のボックスで配線を隠す工夫が随所に施されている。



1階PCエリア

5 おわりに

約3年で、軌道修正しながらもフロアプラン案の8割は実施を終えた。残りは新たな目で検討していくことになろう。また、旧館改修工事完了後、資料は分野別に再配置された。2020年度にはカウンターを3階から1階へ移動する予定である。旧館と新館の役割分担を考えながら新館の改修を終えたい。また、事務室の改善は利用者サービスの向上へつながると信じ、事務室の改修に向けても調整を始めていきたいと考えている。

参考文献

- 1) 岡田将彦ほか. 慶應義塾大学におけるLibQUAL+® 2017. MediaNet. 2018, no.25, p.24-30.